

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

winter 2011
Jan.—Mar.

75

特集

白井 剛×YCAM ビデオダンス制作プロジェクト

「Choreography filmed: 5days of movement」

梅田宏明 新作ダンス公演

「Holistic Strata」

観たことない
世界が広がる。
舞台表現へのYCAMの試み。

梅田宏明

新作ダンス公演

Holistic Strata



特集

03 観たことない
世界が広がる。
舞台表現へのYCAMの試み。

白井剛×YCAM ビデオダンス制作プロジェクト
「Choreography filmed: 5days of movement」

梅田宏明 新作ダンス公演
「Holistic Strata (ホリスティック・ストラータ)」

ピックアップイベント

08 日々の暮らしに彩りを。
YCAMメディア・キッチン

山口情報芸術センター
meet the artist 2010「自分のメディアを創る」映像祭
市民コラボレーターたちの手によるオリジナル映像祭

真鍋大度+石橋素 新作インスタレーション「Flyingdots (仮)」
光の軌跡が空中に描く、立体的なパターン

中原中也記念館
企画展Ⅲ「中也が読んだ本」
多読の中也は何を読んだか

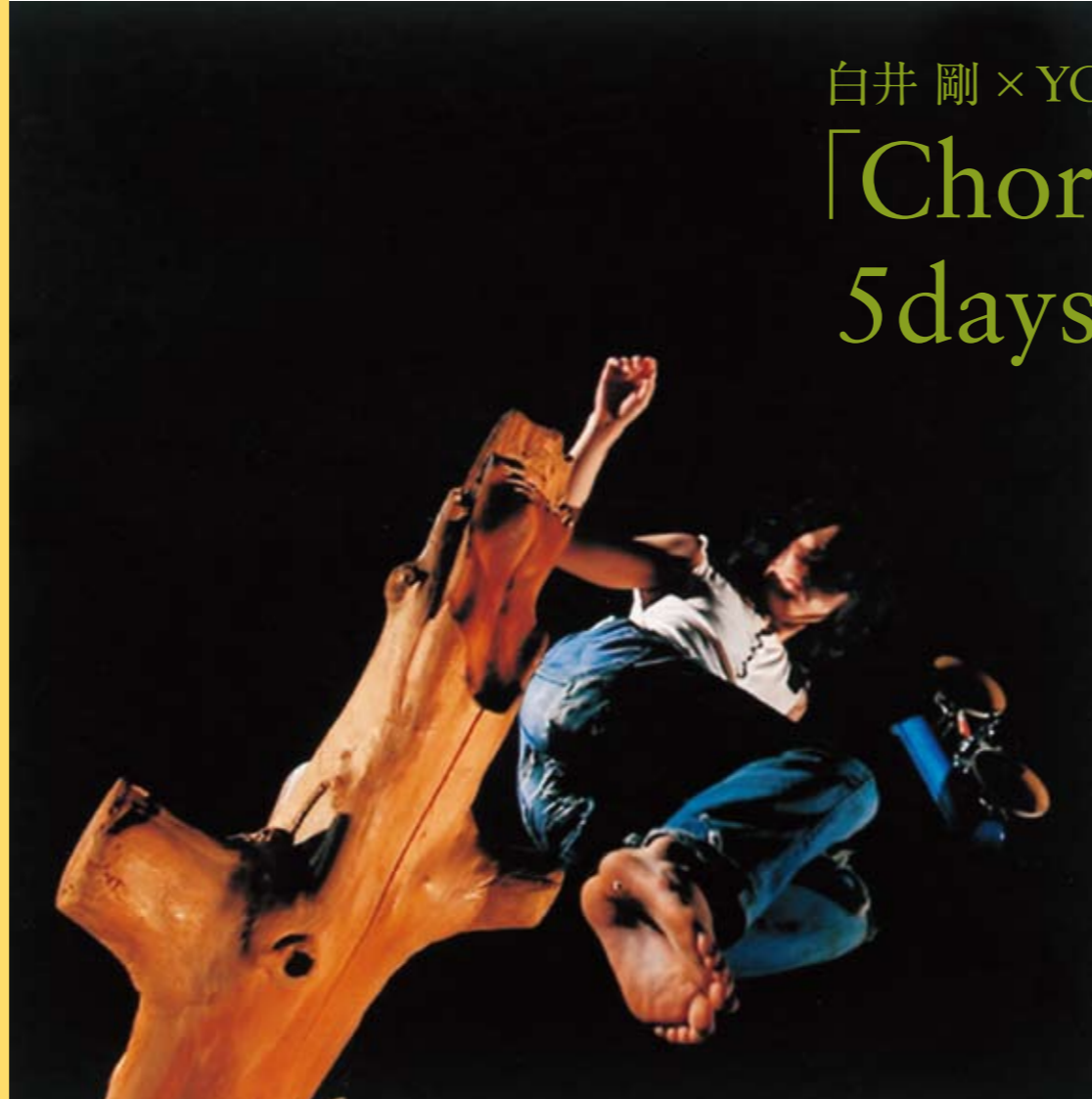
第8回常設テーマ展示「これが私の故里だ」
詩人を育んだ故郷とはどんな処だろうか

山口市民会館
第38回市民コンサート
春の息吹を音楽で感じるコンサート

12 any通信

- ◎アーティストボイス 西村雅彦 (俳優)
- ◎お先に試写しました 「ヘヴンズ ストーリー」
- ◎いただきます 中華そば・和味 (「中華そば吟」山口店)
- ◎GOOD GOODS Diatxt./Yamaguchi 「ヨロボン」
- ◎My Favorite 那須香 (中原中也記念館 職員)

14 イベントカレンダー 1~3月
INFORMATION



梅田宏明 新作ダンス公演

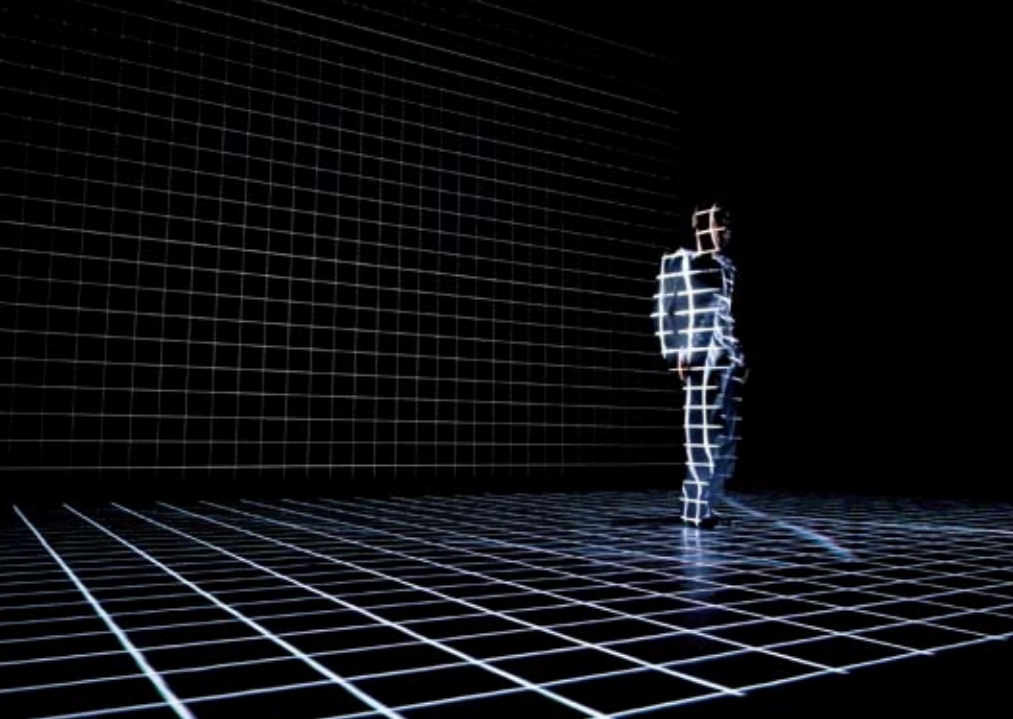
「Holistic Strata」

観たこと
ない
世界が
広がる。

白井剛×YCAM ビデオダンス制作プロジェクト

「Choreography filmed:
5days of movement」

舞台表現への
YCAMの
試み。
メディアアートの分野で、
他に追随を許さない
独自性を誇る文化施設、
山口情報芸術センター。
アート作品の展示はもちろんのこと、
舞台芸術の分野でも
新しい表現を追求し、紹介しています。
山口で制作された舞台作品が、
世界を巡回することも。



「Adapting for Distortion」(2008) photo: Alex

2011年初めには、振付家・ダンサーとして国内外で活躍する白井剛と梅田宏明が、それぞれYCAMでの滞在制作を経て新作を発表します。

ここから見えてくるYCAM×アーティストの舞台表現への試み。

「新しい」「観たことない」が感じられるYCAM舞台表現の「現在形」に迫る！

HIROAKI UMEMEDA

Message from Artist

作品そのものを体験して欲しい。

梅田宏明



photo: Shin Yamagata

YCAMはテクノロジーアートの分野では世界的に知られていますし、技術レベルにおいても評判が高い場所です。そんなYCAMで優れた技術的サポートを受けながら作品を作ることは、僕にとってとても興味深いことでした。今までの自分のスキルでは作れない、YCAMでしか作れない作品を創作してみたいと思っています。出来上がった作品は、その意味やコンセプトを考えて見るというよりは、とにかく作品そのものを体験して欲しいですね。

YCAMの技術スタッフは、創作のアーティスト的な面においても、意見を出してくれるので、創作のコンセプトとテクニカルなアイデアの両方の観点から話を進めることができる点がとても魅力的ですし、YCAMのすばらしい特徴だと感じています。

YCAMではすでに悩むくらい色々なことを実験させてもらっています。センサーなど沢山の技術を試しました。今回の作品でそれらを利用するかは分かりませんが、今後の作品のアイデアに大きく影響してくると思います。YCAMでの新作は、フランスでの巡演がすでに決まっています。同時に来年からは海外でバレエダンサーを使った作品をいくつか作ります。そちらの方でもどんどんこういった技術を取り入れていこうと思っています。

梅田宏明 UMEMEDA Hiroaki

1977年東京生まれ。2000年より創作活動を開始し、「S20」を発売。ヨーロッパを中心に世界各地の主要フェスティバル・劇場に招聘され、「while going to a condition」(2002)、「Finore」(2003)、「Duo」(2004)、「Accumulated Layout」(2007)などの作品を発表。09年、初のグループ作品「1. centrifugal」を日本、フィンランドで公演。振付、ダンスのみならず映像、音、照明デザインまで担当し、ダンス以外の分野でも活躍する。

新しい芸術作品の創作現場 = YCAM 滞在制作

演劇、ダンス、あるいはそれらのジャンルを超えた身体表現の“いま”を、幅広く紹介している山口情報芸術センター(YCAM)。ここでは、国内外で高い評価を受ける作品をいち早く紹介するだけでなく、アーティストが長期にわたって山口に滞在し、YCAMの環境・設備・空間を活用しながら、作品を制作する「滞在制作」というプロジェクトにも力を注いでいます。これまで様々な作品が、ここ山口で誕生しました。

その試みは、YCAMがオープンした2003年からすでに始まっていました。これら落としたフィリップ・ドックフレによるダンス公演「IRIS」は、日本をはじめ中国、韓国、そしてフランスからダンサー、パフォーマー、ミュージシャンが参加する国際共同制作。出演者16名、スタッフ約10名が約1ヵ月半の間、山口に滞在し、YCAMのスタジオでメディア技術を駆使した作品を制作していきました。そして、本作はYCAMで上演された後、海外へと

渡り、フランスなどヨーロッパの様々な場所を旅しました。

その後も、YCAMでは、新しいメディア技術を取り入れた舞台作品の開発、また海外ダンサーと日本人の音楽家や映像作家、美術作家といった異ジャンルで活躍するアーティストとのコラボレーションを提案するなど、1年に1~2本の割合でYCAM×アーティストの共同制作によるオリジナルの作品を生み出しています。そして2010年度、YCAMでは、2人のアーティストを迎え、2つのダンス作品の制作を試みます。一方は映像作品(ビデオダンス)として1月に、また一方は舞台公演として2月に、その完成作品を観ることができます。

映像でみせるダンス(身体)とは? —白井剛×YCAMの試み

今回、舞台公演ではなく、映像作品としてのダンスの制作に挑戦し、新たな視点で身体と向き合ったのは、新進気鋭の振付家・ダンサー、白井剛。カンパニーあるいはソロで、多くのフェスティバルや劇場に招聘され、作品を発表しています。その活躍は国内にとどまらず、海外でも高い評価を受けているアーティストです。すでにYCAMには、2004年にカンパニー“発条ト(バネト)”として、また、2007年制作のダンス公演「true / 本当のこと」のメンバーとして訪れており、作品制作を経験しています。また、2010年8月には音響と身体表現をテーマにしたワークショップの講師としても登場。その白井が次なるステップアップとして挑戦したのが、ダンス×映像の表現として注目を集めるビデオダンスの制作でした。

今作の下地になっているのは、2004年に白井が発表したダンス作品「質量, slide, &」。ここから発展し、身体と質量をテーマに、5日間×7時間にわたって撮影が行



白井剛「質量, slide, &」 photo: Toshihiro Shimizu

TSUYUYOSHI SHIRAI

Message from Artist

生ではない身体が観客に伝わる瞬間—。

白井 剛



photo: 白井 亮

映像作品を作るとき、撮影や照明など機材についての技術面が必要になってきます。その点YCAMは安心だし、むしろ僕の知らないテクニックやメディアについての情報も得られるという期待もあってYCAMでの滞在制作を行いました。自分一人での撮影ではなく、技術スタッフと一緒に撮影をする経験は今回が初めてで、撮りたい画をどうやって探していくか、またスタッフとどのように共有していくのか、チャレンジではありました。実際にはYCAMから色々なアイデアをもらい、またフレキシブルに対応していただきました。僕は舞台上で、生でダンスをみせる経験の方が多いので、スクリーンやモニターの中で、生ではない身体をみせるとき、観る側にどういふに伝えることができるのか、伝わる瞬間をどうやって作りだせるのか、そこを発見したいと思っています。

自分が映っている姿を観るのはあまり気持ちのいいものではなくて、いままでも自分が被写体になることを割と避けてきたのですが、とくに回転するところは、カメラのアングルに体が踊らされる感覚で、新しい経験でした。もし次に映像を作るなら今度はカメラを回す方をやりたいです。被写体の身体性と同時に、カメラを回している身体性の方がよりリアルに反映されそうな気がします。

白井 剛 SHIRAI Tsuyoshi

1976年、長野生まれ。96~2000年、ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」の作品に出演。98年、「Study of Live works 発条ト」に参加し、パニョレ国際振付賞受賞。「質量, slide, &」(2004)で、06年トヨタコログラフィアワード「次代を担う振付家賞」を受賞。06年、新たにカンパニー「AbsT」を立ち上げ、07年「しはに - subsoil」、5人の音楽家との共作「THECO - ザコ」を発表。第1回日本ダンスフォーラム賞を受賞するなど、いままも注目を集める振付家・ダンサーの一人。

YCAM 滞在制作 パフォーマンス作品ラインナップ

2003 山口情報芸術センターがオープンする (11/1)

フィリップ・ドゥクフレ

「IRIS」(11/1~3)

フランスと日本(山口・神奈川)との国際共同制作による舞台公演。欧米・アジアからダンサー、スタッフが参加し山口に滞在。YCAMのこけら落としとして上演後、フランスでロングラン上演され、ヨーロッパを巡回する。

2004 藤本隆行 + Monochrome Circus

「Refined Colors」(7/15,16)

発光ダイオードで自由に色を作り出せる照明器具(LED)を用いた実験的ダンス公演。dumbtypeの藤本隆行、Monochrome Circusが参加。

study of Live works 発条ト

「Runnin' ChorDrive」(7/24)

自由な発想による身体表現、空間創造を試みるパフォーマンスグループ・発条ト(バネト)によるパフォーマンス公演。秋吉台国際芸術村との共同事業。

2005 ジャン＝パティスト・アンドレ × 青木孝允 × 松本典子

「(HiDDEN FACES / FACES CACHéES / 隠された面)」(10/1,2)

2003年「IRIS」にも出演したサーカス学校出身のジャン＝パティスト・アンドレによる新作ダンス作品。日本の音楽家・青木孝允と映像作家・松本典子も参加。

2006 ポール＝アンドレ・フォルティエ

「1×60」(7/23)

カナダ・ケベック州のダンス界を切り開いてきたポール＝アンドレ・フォルティエが日本の若手メディアアーティスト・南隆雄らと共同制作したダンス作品。

2007 藤本隆行 × 白井 剛 × 川口隆夫 × 南 琢也 × 真鍋大度 × 堀井哲史 × 斎藤精一 × 石橋 素 × 照岡正樹 × 北村教子

「true / 本当のこと」(9/1)

白井剛、川口隆夫の2名をパフォーマーに、第一線で活躍するアーティストやエンジニア10名が集結。テクノロジーと身体の新たな関係を追求したダンス作品。

勅使川原三郎

「Friction of Time – Perspective Study vol.2」(2007制作、2008公開)

舞踏家・勅使川原三郎がYCAMと共に制作したダンスビデオ。高速カメラがとらえたダンサーの細かな筋肉の動きは美しく、身体の動きへの新たな視点を提示する。

2008 珍しいキノコ舞踊団 × plaplax

「The Rainy Table」(2009/2/28, 3/1)

ダンスカンパニー・珍しいキノコ舞踊団とメディアアートユニット・plaplaxの共同作品。YCAMが取り組む「アートとメディアと身体表現」の新たな可能性を切り開いた。

2009 マレピトの会

「PARK CITY」(8/28~30)

滞在制作として初めて挑戦した演劇公演。劇作家・松田正隆と写真家・笹岡啓子による舞台芸術と写真、メディア技術が交差した鑑賞法と表現が先鋭的な作品。



われました(すべての撮影過程をweb上で公開する試みが8月に行われています)。白井による編集・加工の工程を経て、映像作品として1月23日にYCAMで上映されます。

YCAMでは、勅使川原三郎による映像作品「Friction of Time – Perspective Study vol.2」(2008)で、すでに映像とダンスと身体との関わりを検証するプログラムを開催してきました。単なる記録としての映像ではなく、舞台の演出効果の一つとしての映像とも違う、身体表現の手法としての映像と異なる、身体表現の手法としてのダンスを映像で作る試みには歴史的な潮流があります。上映会当日は、昨今のビデオダンスの情勢についてもトークと映像でご紹介します。上映会終了後はwebで作品を公開(<http://c-filmed.ycam.jp/>)。採用されなかった同シーンの別テイクも観ることができ、どのような編集(振付)がなされたのか、作品の創作過程とアーティストの視点を探ることができます。

たな体験としてのダンス。すでに公演の会場となるスタジオで、YCAMの技術スタッフ(YCAM InterLab)のバックアップのもと、2月の公演に向けて実験とリハーサルが幾度となく繰り返されています。2月の公演では、いったいどんな作品が登場するのか。観たことのない世界があなたを待っています。

もっと作品のことが知りたい!という方にはYCAMの舞台裏を見学するバックステージツアーに参加されることをお勧めします。本作品の制作中の様子を垣間見ることができる他、アーティストからも話を聞くことができます。さらに、公演の終了後には、アーティストとゲストによるトークイベントも開催します。事前のバックステージツアーで期待を高めて、本番を観劇し、さらにはトークイベントにも参加すれば、梅田宏明の作品の魅力をあますことなく知ることができます。

知覚を揺るがす 革新的なダンス公演 —梅田宏明×YCAM の試み

一方で、舞台公演として作品を発表する滞在制作も同時に進行しています。白井剛に続いて、YCAMで滞在制作を行うのは、梅田宏明。ダンスの振付、出演だけでなく、映像やサウンドについても自らがデザインし、身体と舞台空間が一体となったパフォーマンスによって、欧米を中心に数々の公演を行ってきた振付家・アーティストです。様々な技術者がネットワーク上でコラボレーションを行い、開発するオープンソースソフトウェアが出現し、プログラミングをほぼ独学で習得可能になった環境を背景に、パソコンと身一つで、海外のフェスティバルや劇場を飛び回る梅田。そんな梅田宏明が今回YCAMで目指すのは、身体、音、光が一体となった全く新

YCAMの 舞台表現に対する 姿勢

これまでの作品も、これから発表する2つの作品も、共通して言えるのは、YCAMは常に芸術表現の新しい可能性を追求する実験的な場と、新しい表現を生み出す創造の場を提供しているということ。しかもYCAMでの発表だけにとどまらず、その作品が必ず他の場所、とくに海外を巡回することも視野に入れています。実験がただの実験に収まらず、作品へと昇華していくこと、その作品が観客を満足させること、そして何よりそれらの作品が、新しい価値を提唱し、次の創造の源泉となること—YCAMは常に未来を見据えた作品制作に挑戦しているのです。舞台表現のいまを伝え、さらにまだ観たことのない可能性を示唆するYCAMの試みを、まずは1月の白井剛ビデオダンス上映会、2月の梅田宏明新作公演で感じてみてください。

白井 剛 × YCAM ビデオダンス制作プロジェクト 「Choreography filmed: 5days of movement」 プレミア上映会

2011年1月23日(日) 14:00開演
(30分前開場)

会場:山口情報芸術センター スタジオC

[チケット情報]発売中
[料金]全席自由
一般 1,000円 any会員・特別割引 800円

梅田宏明 新作ダンス公演 「Holistic Strata」(ホリスティック・ストラタ)

※同時上演「Accumulated Layout」
2011年2月19日(土) 19:00開演
20日(日) 14:00開演
(各日30分前開場)

会場:山口情報芸術センター スタジオA

[チケット情報]発売中
[料金]全席自由
前売 一般 2,800円 any会員・特別割引 2,500円
25歳以下 2,000円
当日 3,300円

関連イベント

YCAM バックステージツアー 2011

2011年2月5日(土)、6日(日)
各日14:00~15:00

会場:山口情報芸術センター スタジオB

梅田宏明新作ダンス公演「Holistic Strata」の関連企画として、特別ツアーを開催。制作中の現場裏に潜入! 作品に使われている技術や、新作の魅力にいち早く出会えます。

[料金]無料(要申込) ※申込方法等詳細はお問い合わせください。
[対象]小学生以上(小学1~3年生は保護者同伴)
[定員]各回30名

P R E S E N T

白井剛ビデオダンス上映会および
梅田宏明新作ダンス公演の
チケットをプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、Aは1月15日(土)必着、BおよびP11の読者プレゼントは1月31日(月)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 白井剛ビデオダンス上映会
チケット(ペア2組)

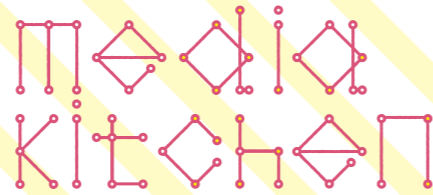
B 梅田宏明 新作ダンス公演
「Holistic Strata」(2/19、20各日ペア2組)
※ご希望の日をあわせてご記入ください。

【あて先】〒753-0075 山口市中国町7-7
(財)山口市文化振興財団
「any vol.75 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216 e-mail:any@ycfcp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

観 聴 の ！

- ◎中他の日記から、生きること悩んで考えていたことを知ることができてよかった。(20代男性「中他の住んだ町—中野・高円寺」より)
- ◎アーティストの背景に霧と光がかかって、とてもきれいでした。(「CLOUD FOREST」展アーティストトークより)
- ◎「焼きそば」のシーン最高でした。ただ食べるだけでも芝居になるんですね。(40代男性「バイレーツオブ山田小学校」より)
- ◎言葉を用いず身体表現のみで、ここまで観客に世界観を想起させることができるのかと感動しました。(20代男性「中村恵恵×首藤康之ダンス公演」より)

日々の暮らしに 彩りを。



YCAMメディア・キッチン

年間を通して全3回行われるレクチャーシリーズ YCAMメディア・キッチン。

生活の延長線上にあるメディア技術の存在を意識してもらおうと、「衣・食・住」という身近なピックをテーマに開催。

これまで開催してきた「食」と「衣」をテーマにした2回のレクチャーは、

ともに主婦の方を中心に幅広い年齢の方が参加され、

リピーターも続出するなど、好評を博しました。

各テーマに沿った専門の講師のユニークな視点を通して、

日常生活に新しい彩りを加えるこのレクチャー。

シリーズ最後となる3回目のテーマは「住」。さあ、今回はどんな話が飛び出すのか!?



第1回 テーマ:食 (開催日:6月12日)

“フードデザイナーの視点”

終了しました

アルゴリズム・クッキング

フードデザイナーとして活躍される中山晴奈さんを講師に迎え、コンピュータの機能にある、速く、大量に結果を導くための手順「アルゴリズム」を料理の世界に当てはめて考察。参加者は、一見何か判別のつかない1口サイズの食材を、事前情報なしに試食するなどの簡単なゲームを体験しながら、レシピに隠された方法や原理、情報化社会の仕組みに迫りました。コミュニケーションツールとしての「食」を意識したり、日常的な「食」を違った視点でとらえる時間となったようです。



中山晴奈



第2回 テーマ:衣 (開催日:10月23日)

“からだに訊くテクノロジー”

終了しました

さわって、着て、かんがえる

オーストラリア出身のアーティスト、研究者であるダニエル・ワイルドさんを講師に迎え、電子機器と衣服を結びつける「ウェアラブル(着られる)・テクノロジー」と、それを使ったプロジェクト「OWL」を紹介。さらに、参加者は、伝導性の布と糸を使用した簡単な電子手芸を通じて、音や光が出る布製の小物の創作を実際に体験しました。それぞれが、テクノロジーと身体の間を新しい側面からとらえなおし、また未来のテクノロジーのあり方について思いを巡らす貴重な機会となったようです。



ダニエル・ワイルド



第3回 テーマ:住

“間取りの文法”

参加申込受付中!

生活を映すイメージネーション

3回目のレクチャーの講師には、間取りの読み解きにより発想されるコラムを綴った書籍「間取りの手帖」の著者であり、大学で“間取り”や“間取りと文学”に関するレクチャーを行う佐藤和歌子さんが登場。最も身近な空間表記言語としての間取りから、何を読み取ることができるのか。間取りを媒体に交換される情報や、間取りというメディアの持つ原理や可能性についてお話しいただきます。彼女ならではの間取り解析の手法や、間取りにまつわるたくさんの興味深いエピソードも聴くことができますよ!



佐藤和歌子

1月22日(土)
会場:山口情報芸術センター ホワイエ
[料金] 無料 [対象] 中学生以上 [定員] 60名
[申込方法] ハガキ・FAX・e-mailにて、住所・氏名(ふりがな)、性別、生年月日、電話番号・e-mail等連絡先とともに、下記へお申し込みください。
〒753-0075 山口市中園町7-7
FAX: 083-901-2216
e-mail: workshop10@ycam.jp

山口情報芸術センター (YCAM)

http://www.ycam.jp/

meet the artist 2010

「自分のメディアを創る」映像祭

2011年3月26日(土)、27日(日) 時間未定

会場:スタジオC

市民コラボレーターたちの手によるオリジナル映像祭

市民とアーティストが1年間にわたって1つのクリエイションを行う長期ワークショップシリーズ「meet the artist」。2010年度は「映像」をテーマに、現代美術作家の藤井光を講師に迎え、約30名の市民コラボレーターが参加・活動しています。定期的な研究会を通じて、コラボレーターと藤井光が話し合いながら、映像メディアによる新たな表現方法について模索。また10月には山口市内のイベント「アートふる山口」を舞台に、一般の参加者に短い映像作品を制作してもらう映像体験ワークショップも実施しました。

これらの活動を踏まえ、3月には1年間の成果発表として市民コラボレーターたちが企画・運営するオリジナルの「映像祭」を開催します。プロアマ問わず一般から映像を募集し、それらの作品を一挙上映予定。お楽しみに!



10月に行った映像体験ワークショップの準備風景

アーティスト藤井光さんからのメッセージ



情報技術の進展によって、人々が社会生活の中で映像メディアを活用し始めている。一握りのクリエイターに視聴者・消費者がいるというこれまでの一方的な関係を担保してきた、テレビ・映画館・美術館に対するオルタナティブ(YouTube、Ustream、ニコニコ動画など)が興隆し、自分たちの情報を自分たちで発信する文化が広がっている。一方で、映像技術は、言葉や文字のようにはまだ民主化はされておらず、ストーリーの構成、撮影の方法、映像編集など技術支援を必要とする多くの声が寄せられている。私は市民コラボレーターと協働で考案することのプロジェクトを通して、誰もが主体的に表現することの今日的な意味を問い直していきたいと思っている。

わたしはココに注目する!
映像作品を自ら制作するだけではなく、映像制作・映像表現についての仲介者となり、多くの人にその技術や創造性について伝えていく役割を市民コラボレーターに期待していると語る藤井さん。その思いを受け、初めて自分たちの手で映像祭を作ることにも挑むコラボレーターたちの活躍にもご注目を!

料金 | 無料

文化庁メディア芸術祭巡回企画展

真鍋大度+石橋素 新作インスタレーション「Flyingdots(仮)」

2011年3月5日(土)~5月8日(日) 10:00~19:00

会場:スタジオB

光の軌跡が空中に描く、立体的なパターン



真鍋大度+石橋素「Command Line Wave」(2008)

アーティスト・デザイナー・プログラマー・DJなど多彩な活躍を見せる真鍋大度。同じくアーティスト・プログラマーとして活躍し、ショールームや科学館などの常設展示のインタラクティブシステムの制作展示を行う石橋素。高度なデバイス技術を巧みに操る2人のアーティストによる、新作インスタレーションをYCAMのギャラリースペースを使って発表しま

す。光輝くボールが宙を舞いながら、次々と立体的なパターンを描き出す作品は、どなたでも楽しめます。このほか、日本最大のメディアアートの祭典「文化庁メディア芸術祭」の過去の受賞作品などを映像でご紹介します。

わたしはココに注目する!

2010年2月には、インターネットの検索技術をテーマに、その仕組みを遊びに置き換えながら学ぶ「検索ワークショップ」の講師としてもYCAMに登場した2人。常に独創的な発想でユニークな作品を発表し、海外でも注目を集める彼らが、YCAMのスタジオを一体どんな空間に仕立てるのか、乞うご期待!

料金 | 無料

- 特別割引:シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学時入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

中庭



スタジオAから図書館までをつなぐように配置された4カ所の中庭。ガラスに囲まれた開放的な空間には椅子・テーブルが設置され、晴れた日には青々とした「シマトネリコ」の木に日光が降り注ぎます。本を読んだり、みんながゆったりと過ごすスペース。そんな中庭が時にはパフォーマンスの発表やインスタレーション作品の展示の場にも変わります。また、地下に設置されたスピーカーから響くサウンドと、吹き抜ける天井からとりこまれる外部の音、さらには屋根までつながる高い壁が特殊な音響効果を発揮し、他にはないサウンド・アートを体感できます。日常においてアートを身近に体験・観賞できるYCAMならではの憩いの場所で、新たな表現に触れてみませんか?

mini PICKUP!



「ホットペッパー、クレーン、そしてお別れの挨拶」(ドイツ、2009) ©Dieter Hartwig

チェルフィッチュ 新作公演「ゾウガメのソニックライフ」

2011年3月13日(日)

14:00開演

会場:山口情報芸術センター スタジオA

第49回岸田國土戯曲賞を受賞した演劇「三月の5日間」で2007年YCAMに登場したチェルフィッチュ。演劇界のみならず様々な分野で注目される彼らの新作公演を上演します。公演前にはチェルフィッチュ主宰であり、劇作家・演出家の岡田利規による、表現のヒミツを探るワークショップも開催。独特の演劇世界にふれる機会をお見逃しなく。

[チケット情報]

一般発売 1月8日(土)~

[料金] 全席自由

前売 一般 2,800円

any会員・特別割引 2,500円

25歳以下 2,000円

当日 3,300円

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展Ⅲ

「中也が読んだ本」

2011年1月26日(水)～4月17日(日)

多読の中也は何を読んだか

中也はたいへんな読書家でした。1927(昭和2)年に使用された日記(「新文芸日記」)には読書記録欄があり、当時読んでいた本が細かく記されています。それを読むと、20歳の中也が、どのような本を好んでいたかがよく分かります。また、他の日記や友人への手紙のなかにも、読んだ本のタイトルやその感想について書かれていることがあります。

中也の蔵書は残念ながらほとんど失われていますが、当記念館では中也の読んだ本と同版の本を収集してきました。今回の展示では、それら収集した本を中心に、中也の読書とそれが中也に与えたであろう影響などについてご紹介しながら、読んだ本を通して見えてくる中也の新たな側面を探ります。



「新文芸日記」1927年1月読書欄

わたしはココに注目する!

「本を読めよ、とにかく読むんだ。(中略)本を買って呉れなければ家中暴れ廻ってやれ」と小学生の弟に言っていた中也。29歳の日記には「俺は今日迄に五六千冊は読んだ」と書いています。

入館料 一般 310円(262円)／大学生 210円(157円)／小中高校生 150円(105円)
※70才以上は無料 ※()内は20人以上団体料金 ※あわせて常設テーマ展示もご覧いただけます。

第8回常設テーマ展示

「これが私の故里だ」

2011年2月16日(水)～2012年2月12日(日)

詩人を育んだ故郷とは どんな処だろうか

故郷への思いは、良かれ悪しかれ誰もが持つものです。生まれ育った土地は、幼い頃の思い出とともに特別な場所となります。中原中也も故郷に特別な思いを抱いていました。

本州の西端・山口で、医家である中原家の長男として育った中也。湯田温泉という遊楽街であるために、外で遊ぶことを禁じられたり、神童と言われる程、厳しく優秀に育てられたのに、文学に耽って中学3年で落第したり…。山口は、中也が少年期を過ごし、飛び立つ思いで離れはしましたが、強く懐かしみ、晩年、帰郷を望んでいた場所です。中也の故郷と、故郷への思いと、その詩をご紹介します。



明治末～大正頃の湯田温泉の絵葉書

わたしはココに注目する!

中也は長男でお坊ちゃん。深く愛され厳しく育てられました。弱れるからと川遊びを禁じられたり、小学校に人力車で通ったり…。晩年、故郷について「ほんのつまらぬ道の曲がり角にも、少年時代がこびりついてあります」と書いているところからも、中也の故郷への思いが伝わります。

入館料 一般 310円(262円)／大学生 210円(157円)／小中高校生 150円(105円)
※70才以上は無料 ※()内は20人以上団体料金 ※あわせて企画展もご覧いただけます。

●同じ時代を生きた河上徹太郎の手紙・評論などから、意外な中也の性格を知ることができた。(20代女性 「河上徹太郎と中原中也」より)
●外国の講師でも、分かりやすく参加でき、言語を超えて話が聞けたという気がした。(「YCAMメディアキッチンvol.2」より)
●屋外の作品は子どもたちがとても楽しそうに走り回っているのもよかったです。(中谷美子+高谷史郎「CLOUD FOREST」展より)
●久しぶりに大きな音楽を聴いて、元気を貰いました。(90代女性 「プラスの音色を楽しむミニコンサート」より)

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

第38回市民コンサート

2011年3月21日(月・祝) 13:00開演 予定

会場:大ホール

春の息吹を音楽で感じるコンサート

毎年春分の日に行われる恒例のコンサートとなった市民コンサート。昭和49年より開催され、今年で38回目を迎えます。前回までの出演者数は359名の個人、266の団体を数えています。昨年度も1,000人を超えるお客様が来場され、大盛況を収めました。今年もまた、今年度内に開催された各種音楽コンクールで優秀な成績を収められた個人・団体の方々をお招きし、素晴らしい演奏を披露していただきます。個人・団体の部では、ピアノをはじめ、合唱や吹奏楽など各種演奏が鑑賞できる他、市内の中高生約100名からなる「山口ジュニアオーケストラ」の荘厳な音色もお楽しみください。あたたかな春を音楽で彩ってみてはいかがでしょうか。

料金 無料

【問い合わせ】やまぐち市民文化の会 TEL.083-923-1000



わたしはココに注目する!

各種音楽コンクールで経験を重ねているだけあって、どの出演者も聴きごたえたっぷりのステージを繰り広げてくれます。音楽経験者もそうでない方も心が引き込まれる演奏会です。お帰りになるころには、感動と元気がわき出ていることでしょう。

イベントレポート

一青窈 Tour 2010「おかわりありませんか」

PRESENT



去る10月2日に山口市民会館の大ホールでコンサート「一青窈 Tour 2010『おかわりありませんか』」が行われました。チケットは前売で完売。たくさんのお客様にご来場いただき大盛況のコンサートとなりました。舞台セットで表現されたのは昭和歌謡の世界。舞台上に用意された「スナック窈」の看板に明かりが灯るなか、小柄で細身の彼女が、力強く、また切なく歌いあげる姿が印象に残っています。歌ではしっとりと魅せてくれた一青窈ですが、曲と曲の間のトークでは、当日山口に到着した後、瑠璃光寺五重塔や中原中也記念館に行った話、ラーメンが大好きなことから、山口市内の商店街のはずれにある某ラーメン店に行ったときのエピソードなどが飛び出し、大きな笑い声と温かい拍手を誘っていました。歌もおしゃべりも最高に楽しい一青窈の魅力満載のステージパフォーマンス。当日来場されたお客様からも感動と喝采の声が多く寄せられましたので、ここでご紹介いたします。



今号を読まれた方の中から抽選で、一青窈のCDアルバム「花蓮街」を1名様にプレゼントします。コンサートで買い逃した方はもちろん、まだ一青窈の音楽を聴いたことのない方もぜひご応募ください。
※応募方法は本誌P7「読者プレゼント」を参照ください。

「一青窈の世界にひきこまれました」(30代男性)

「テレビで観るより、細くて顔も小さくて、とにかく素敵なお人でした」(40代女性)

「1つ1つの曲に心を込めて歌っているから、どの曲も心に響いてきた」(10代女性)

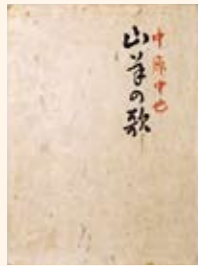
「ライブの途中でステージから客席に降りて回ったときは驚いたが、よりアーティストを身近に感じる事ができた」(40代女性)

「山口県初のコンサート、チケット代の価値以上のものだった」(30代男性)

■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

検定 中也

これであなたも中也通!



中原中也著「山羊の歌」(装幀:高村光太郎)

Q 中原中也記念館では常設テーマ展示「山羊の歌」までを開催中(～2/13)です。中也たっぴの希望で第一詩集「山羊の歌」の装幀は、彫刻家・詩人として知られる高村光太郎が手がけました。「文圃堂書店」という古本屋兼出版業を営んでいた野々上慶一は、光太郎による「ある本」の装幀について、中也が「高村さんのような字が好きなんだ、あれはいい字だよ」としきりに褒めていたと回想しています。さて、中也が光太郎に装幀を依頼するきっかけとなった「ある本」とはどれでしょうか?

- 『萩原朔太郎全集』
- 『宮沢賢治全集』
- 『室生犀星全集』

答えは14ページ

中也を味わう

「山口お宝展」

毎年恒例となった「山口お宝展」には、いつも中原中也記念館も参加しています。今回は2/11～3/6(前期)に中也が母に持ってきた手紙2通を、3/8～4/3(後期)に中也の祖父が書いた手紙を展示します。前期の手紙2通は、中也が萩の家から出したもので(当時、中原家は弟・思郎の通学の便利上、萩に家を借りていました)、ワイシャツのボタンを送ってほしいことや、弟・拾郎が無事到着したことなどを伝えています。後期の手紙は、祖父・政熊が中也命名の際に催した宴会の案内状です。中也の日常が垣間見える内容や中也がより身近に感じられる3通の手紙。他の施設のお宝見学とあわせて、中也記念館にもぜひ足をお運びください。

観覧したあなたに!

ホールに おいでませ

第15回ニューイヤーバンド フェスティバル2011

2011年1月22日(土)

10:30開演

会場:山口市民会館 大ホール



山口市内の小学校、中学校、高校、大学、一般の音楽団体が、一堂に山口市民会館に集い、日頃の練習の成果を発表する毎年恒例のニューイヤーバンドフェスティバル。クラシックからポップスまでさまざまな吹奏楽の音楽が、多数披露されます。洗練された音を出すため努力を惜しまない出演者たちの音楽に対する情熱が、聴く人の心を惹きつけ刺激してくれます。新春を迎え、今年一年の新たな目標を決めるきっかけになるのではないのでしょうか? みんなで音楽を奏でる楽しみや喜びが伝わってくるこのコンサートに是非ご来場ください。(やまぐち市民文化の会)

【料金】無料

【問い合わせ】平川中学校(水村)
TEL.083-924-7700

バックステージへ ようこそ



2011年で開館40周年を迎える山口市民会館。1,500席を備える大ホールでは文字どおり大きなイベントを行ってききましたが、小ホールは、客席がないので多目的に使えるようなあつらえ。会館初期をよく知る現副館長の三輪裕将さんは「昔もいまも、市民が一番利用されているのが、小ホールだね。床が平らだから、使い勝手がよく、展示会場にもなっていたし、舞台もあるから椅子を並べて講演会や小さなコンサートによく利用されていたね。ホール全体を使って踊ることもできるから、社交ダンスやミラーボールを飾ってディスコ会場になったこともあったよ」と語ります。山口大学の学生の利用も多く、バンド活動をしている当時の若者たちの発表の場にもなっていたとか。市民に開かれた空間として、これからもご利用をお待ちしています。

any通信

ストーブ、おでん、温泉 etc...
“あったかい”に
ほっと癒やされます。



言葉と音楽が耳に残るコンサート



去る11月3日、山口県教育会館を舞台に、詩と美しい旋律が融合したコンサート「声のまぼろし—中原中也、金子みすゞ、まど・みちおの彼方へ」が行われました。東京芸術大学音楽学部の学生、院生、卒業生を中心とした音楽集団“VOICE SPACE”による歌と演奏のパフォーマンスでは、ピアノ、ヴァイオリン、アコーディオン、チェロなどのほか、箏や鼓、尺八といった和楽器も登場し、様々な音

色が交りあい新しいハーモニーを生み出していました。また合間には、詩人の谷川俊太郎さんと佐々木幹郎さんがトークを展開。さらには、VOICE SPACEメンバー作曲の音楽から詩作を試みた谷川さんが、ステージ上で自らパフォーマーとなって朗読する場面も。最後はサビエル記念聖堂少年少女合唱団“ステラ”も登場。楽しさと感動と音楽の余韻がいつまでも残るステージとなりました。

ポルトガル映画を観に行こう!

映画上映の専門設備を持つ全国の文化施設が連携して、これまで上映される機会のなかった映画史上重要な作品を巡回上映する“シネマテークプロジェクト”。今回は、2010年にポルトガルとの友好が150年を迎えたことを記念し、「ポルトガル映画祭2010」を開催します。YCAMもプロジェクトメンバーとして

参加し、1/6～10、14～16に特集上映を行います。100歳を超える今も現役で映画を作り続ける巨匠マノエル・オリヴェイラ監督作品を始め、これまで公開が熱望されながら実現しなかったジョアン＝セザル・モンテイロ監督作品や、そのほか新進気鋭の監督作品など、新旧のポルトガル映画の傑作が堪能できます。また、翌々週からは関連企画としてオリヴェイラ監督の2001～09年の作品も上映。これであなたもポルトガル映画通!

※上映作品等詳細は、webなどをご参照ください。



テレーザ・ヴィラヴェルデ監督「トランス」

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

西村雅彦 (俳優)

コミカルにもシリアスにも演じ分け、たくさんの顔を持つ個性派俳優、西村雅彦さん。彼が率いるドリス&オレガによる舞台作品は、これまで山口で2作品が上演され、その素晴らしい作品で山口の観客を大いにわかせてくれました。あの日客席を包んだ感動の嵐、西村さんにも伝わっていたようです。

山口の皆様はホントに暖かい



去る5月28日「ナンシー」公演でおじゃました西村雅彦です。山口は、2007年に「コースター」という芝居でもお世話になりました。あちこちで何度もお話させていただいているのですが、山口の皆様はホントに暖かい。2つの公演ともに盛大なスタンディングオベーションを頂きました。今、思い出しても体が震え、目頭が熱くなってきます。本当に有難うございました。新しい作品でまたおじゃまします。やはりテーマは勇気と希望です。また、お会いできる日を心待ちにしております。

Doris & Orega Collection Vol.3
「コースター」(出演:西村雅彦、金子貴俊 ほか)
2007年10月28日
会場:山口市民会館 大ホール

Doris & Orega Collection Vol.5
「ナンシー」(出演:西村雅彦、飯島直子 ほか)
2010年5月28日
会場:山口市民会館 大ホール



西村雅彦 NISHIMURA Masahiko

1960年、富山県生まれ。94年、三谷幸喜脚本の「古畑任三郎」シリーズで強烈な個性を発揮し、コミカルな役が話題になる。その後、テレビドラマ「王様のレストラン」(1995)、「TEAM」(1999)や、映画「マルタイの女」「ラヂオの時間」(1997)などで活躍。独特の持ち味を生かし、その確かな演技力と唯一無二の存在感はテレビ・ラジオ・映画・舞台で熱い支持を受ける。



©2010 ヘヴンズプロジェクト

お先に
試写
しまし
まし
友

「ヘヴンズ ストーリー」

(2010年/日本/278分/カラー)
【監督】瀬々敬久 【出演】窪岡晴希、長谷川朝晴、忍成修吾、村上 淳、山崎ハコ

賛否両論あるかもしれないが、近年の日本映画を代表する作品であることは、まず間違いないと徐々に確信した。もとは団地だった廃墟をはじめ、船着き場、草原、桜並木、公園、海の見える団地、病院など劇中に出て来る風景がどれも印象に残る。その中で展開していく物語を観るうち、観る前に躊躇した4時間38分という上映時間の長さは、これだけの時間を要する内容なのだと思います。とにかく、この長い上映時間においても、ぎゅっと詰め込まれているその内容の深さに、ただ唖然とするばかりなのである。本作の核となる登場人物は数名なのだが、その他にも総勢20名以上が物語の主要人物として登場してくる。それらの人々の物語もただの伏線ではなく、しっかりと丁寧に描かれており、カットや台詞のどれをとっても無駄がな

く、スクリーンから眼が離せない。そういった緊張感の中で、気がつくと物語は最終的に一つに繋がりが、壮絶な終盤に向かっていった!! その展開に圧倒されながら、頭に浮かぶのは「どうやって終わるのだろうか?」という期待がこもった疑問。ここまで描ききってしまったら、その後はどうなるのか? その答えはすべて、最終章にあった…。

松富淑香 (YCAM シネマ担当)

2011年2月25日(金) 13:30～
26日(土) 11:00～/17:00～
27日(日) 13:30～
会場:山口情報芸術センター スタジオC
【料金】一般2,300円 any会員/学生1,800円
ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)
障がい者/介護の同行者1名1,500円
※途中休憩あり ※PG-12



©2010 ヘヴンズプロジェクト

「ヘヴンズ ストーリー」作品紹介

両親と姉を殺された少女、サト。彼女は、ある日テレビで妻と娘を殺された男性が加害者にもけて復讐を言い放つのをみる。その瞬間、彼女の中で彼の存在が特別なものになる…。殺人事件の被害者や加害者、そして、彼らを取りまく人々の物語。総勢20名以上の人物が登場し、それぞれの物語が一つにつながっていく。実際に起きた事件から着想された全9章、4時間38分にも及ぶ大作。

My Favorite

ここは「中也記念室」というスペース。コンクリートの壁が湾曲しているのは、中也のトレードマークであるお釜帽子のイメージでデザインされたから。読書コーナーでもあるこの空間には、壁に沿って木の腰掛けが設置されている。四角いものが大半の記念館の中で、この曲線に癒やされる。

那須 香 (中原中也記念館 職員)



那須 香

いただきます



中華そば・和味
(並)580円
※炒飯セットは+350円

深夜までの開店営業がうれしい!

定番メニューの中で気になっていた汁なしの油そば。自家製しょう油ダレがからまった麺の上にはチャーシュー、メンマ、もやし、ねぎ、それにとろ〜とした半熟卵。まずはそれらを箸で混ぜ混ぜ。しっかり混ぜたところでズルズルっと食べると、麺と具がうまくからんでおいしい! こってりかな?と思いきや、卵が絶妙なまろやかさを演出。柔らかいチャーシュー、たっぷりのジャキジャキもやしとねぎもいイクセントに。そこにお好みで橙の酢をかけると、さらにさっぱり!食材へのこだわりやスープの味を決める火加減にも気を配っていると語る店長。その熱い思いと一緒においしくいただきました。24:00まで営業しているので、仕事で遅くなっても立ち寄れますよ。1月に「つけ麺」がリニューアルして登場。こちらもどうぞ期待!

「中華そば 吟」山口店
山口市糸米2-7 TEL.083-921-3007
営業時間:11:00~24:00 年中無休

GOOD GOODS



Diatxt./Yamaguchi「ヨロボン」

編集によってみえてくる山口の魅力

哲学者の吉岡洋と約20名の市民コラボレーターが1年間で1冊の本を作り上げる編集ワークショップ「meet the artist 2007」。このプロジェクトの集大成として2008年に出版された書籍「ヨロボン」は、地域に根付く文化や歴史を市民の目線から選び、グローバルな視点で再編集した1冊。「ヨロ」を縦にすれば「山口」に見える遊び心あふれるタイトルが、全国の書店にも並んでいます。活動の一環として企画・開催した公開対談シリーズやコラムコンテストの辛酸なめ子を審査員に迎えたアート担当コンテストの様子も収録。伝統工芸から文学、郷土料理、山口の路地や工場萌えなどバラエティに富んだ内容で一味違った新しい山口に出会えます。

価格:1,050円(税込)
ソフトカバー A5版/160P/日英両版/2008年

「の!」
「の!」
「の!」

● 中也の直筆の詩が見られたし、未発表詩や河上氏にプライベートで渡した詩を初めて見られて感動しました。(20代女性「河上徹太郎と中原中也」より)
● 繊細な動き、クラシックを基礎としたモダンな世界。身体の使い方に魅せられました。(女性「中村忍恵×首藤康之ダンス公演」より)
● 小林と泰子の関係がおもしろい。(50代女性「中也の住んだ町—中野・高円寺」より)
● 楽しい場面、迫力のある場面、子どもたちも一緒に一喜一憂していました。(30代女性「バイレーツオブ花山田小学校」より)

「の!」
「の!」
「の!」

● 中原中也が生きた時代に関わりがあった人たちのことがよくわかり、その親交の深さが興味深い。(60代女性「河上徹太郎と中原中也」より)
● 着るだけだと思っていた服が何か違うことになるという発想がおもしろかった。(YCAMメディアキッチンvol2)より)
● 昨年の都響公演の素晴らしさを思い出させてくれる催しだったと思います。(20代男性「プラスの音色を楽しむミニコンサート」より)
● 海賊のグリーンの剣さばきが見事でした。(10歳未満女性「バイレーツオブ花山田小学校」より)

1 January

2 February

3 March

掲載内容は2010年12月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM) http://www.ycam.jp/ ※年末年始のお休み12/28~1/4	開催中 カールステン・ニコライ+マルコ・ペリハン「polar」[ポーラーエム] ※1/8、9、15、16、23、29、30 ギャラリーツアーあり	6 プレミア上映会 白井 剛×YCAM ビデオダンス制作プロジェクト「Choreography filmed: 5days of movement」(本誌P3~7参照)	5 文化庁メディア芸術祭巡回企画展 真鍋大度+石橋 素「Flyingdots」(本誌P9参照)	
	23 プレミア上映会 白井 剛×YCAM ビデオダンス制作プロジェクト「Choreography filmed: 5days of movement」(本誌P3~7参照)	19 20 梅田宏明 新作ダンス公演「Holistic Strata」(本誌P3~7参照) ※2/5、6 バックステージツアーあり	13 チェルフィッチュ 新作公演「ゾウガメのソニックライフ」(本誌P9参照)	
	6 10 14 16 「ポルトガル映画祭2010 - マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち」	28 30 4 6 マノエル・ド・オリヴェイラ監督特集 [2001-2009]	18 20 25 27 「世にも怪奇な物語」 「ヘヴンズ ストーリー」(本誌P13参照)	11 13 18 20 「シルビアのいる街で」 「その街のこども 劇場版」
	22 YCAMメディア・キッチン vol.3 「間取りの文法」(本誌P8参照)		6 岡田規演劇ワークショップ「フツウはヘン、ヘンはフツウ ~ふだんの自分自身から学ぶ~」	26 27 meet the artist 2010 「自分のメディアを創る」映像祭(本誌P9参照)
山口市民会館 http://www.c-able.ne.jp/~shimink/ ※年末年始のお休み12/29~1/3	22 第15回ニューイヤーバンド フェスティバル2011(本誌P11参照)		21 第38回市民コンサート(本誌P11参照)	
中原中也記念館 http://www.chuyakan.jp/ ※年末年始のお休み12/27~1/3	開催中 企画展II「中也の住んだ町-中野・高円寺」	23 26 企画展III「中也が読んだ本」(本誌P10参照)	~4/17	
	開催中 第7回常設テーマ展示「[[山羊の歌]まで」	13 16 第8回常設テーマ展示「これが私の故里だ」(本誌P10参照)	~2012/2/12	
		11 「山口お宝展」(本誌P10参照)	~4/3	
		28 25 中原中也を読む会 中原中也を読む会	25 中原中也を読む会 会場:山口情報芸術センター	

[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付)

<http://www.ycfcp.or.jp/>

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

TEL. 083-920-6111

窓口

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口

※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6ヶ月)以上

[料金] 1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分150円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで (山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



財団法人 **山口市文化振興財団** Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
 〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)
 TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
<http://www.ycfcp.or.jp/> zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

毎朝出勤前に太極拳を習っています。初日の準備体操で早くも運動音痴が露呈しましたが、太極拳のゆっくりとした動きと呼吸法が私にちょうどいいみたい。早起きはつらいけど、30分間で体もぼかぼかです。[TI]

運動不足解消にウォーキングを始めようと思い立ち、履くだけで引き締め効果あり!という某シューズメーカーの靴を買ったはいいけど、編集集中の多忙を言い訳に、まだ2回しか履いていません…。[M.D]

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
 TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
 [開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
 9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
 [休館日] 月曜(祝祭日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
<http://www.chuyakan.jp/> chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7
 TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
 [開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
 [休館日] 火曜(祝祭日の場合は翌日)、年末年始
<http://www.ycam.jp/> information@ycam.jp

C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
 TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
 [開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
<http://www.c-able.ne.jp/~shimink/> shimink@c-able.ne.jp

検定 中 也
 A. 2 『宮沢賢治全集』 (中也こだわりの『山羊の歌』は、背の題・著者名とも純金箔押し豪華本です。)



◎中庭にいきなり霧が現れて木々を隠し、光と霧の彫刻が現れた時、思わず足を止めて見入ってしまった。(20代女性 中谷美二子+高谷史郎「CLOUD FOREST」展より)
 ◎鍛えられた身体はとでも饒舌で雄弁ですね。(「中村忠恵×首藤康之ダンス公演」より)
 ◎河上徹太郎と中也の関係がよいなあと思った。徹太郎のことをもっと知りたくなりました。(30代女性 「河上徹太郎と中原中也」より)
 ◎演奏する方と聴く人が一緒に楽しめるコンサートっていいですね。(50代女性 「プラスの音色を楽しむミニコンサート」より)

白井剛×YCAMビデオダンス制作プロジェクト

Choreography filmed:

5days of movement

財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

